

令和3年度

虹の坂通信



呉市立昭和南小学校
学校通信 第13号
令和3年7月7日

学校防災週間

西日本豪雨災害のことを忘れないように、呉市の学校では、7月6日を含む1週間を「学校防災週間」として、各校で防災について考える取組を行っています。月曜日には、運動委員会が、休憩時間に「土のう運び体験」を企画してくれました。災害が起きたときの対応を、少しでもイメージできたのではないかと思います。

3年前の7月6日に、当時本校の5年生の川野君が、被災して亡くなりました。3年前のことが風化してきていると言う声も聞かれます。今年は、私も各学級を回って、7月6日に何が起こったのかを話しました。また、自然災害はいつ起こるか分からないので油断しないこと、自分や家族、友達の命を大切にしてほしいと伝えました。正午には、川野君のことも思いながらみんなで黙とうしました。あの日のことは、「いつまでもわすれてはなりません。」

平和をのぞむ心

7月1日は、戦争の末期に呉空襲が行われた日です。海軍工廠があり、呉も攻撃目標になりました。焼夷弾で火災が発生し、約2000人が亡くなったそうです。

私たちでさえ、当時の呉の町に起こったことを自分の体験として語ることはできません。しかし、当時の悲惨さや恐怖を想像しながら、平和を望む心は伝えていかなければならないと思います。

この日は、毎年、読書ボランティアの方が体育館で読み聞かせをしてくださいます。今年は、放送で野口さんと水長さんが、戦争当時の呉にかかわる「とうせんばのつやちゃん」という物語を読んでもらいました。また、給食でも、食料が少なかった頃の「すいとん」や非常食の「乾パン」が出されました。

この時期は、防災や戦争を取り上げながら、日々の生活の中では、自分も相手のことも大切にしてほしいというメッセージを伝えています。



川野君の描いたポスター



土のう運び体験（運動委員会）



野口さんと水長さん



呉が舞台の「とうせんばのつやちゃん」